

## 「冠動脈関連疾患の血液内遺伝子動態」に関する研究

### 1. 研究の対象

2012年1月から2015年11月に当院で高瀬凡平先生の外来に受診された冠動脈関連疾患対象患者441名の血液の残検体を使用します。

### 2. 研究目的・方法

現在、心筋梗塞は健康診断や人間ドック等で早期発見に努めているものの、その死亡者数は右肩上がりで、トロポニンTあるいはIが最も診断的価値のある検査とされています。しかし、トロポニンだけではその早期の診断に困難な症例があります。そのため、いろんな診断法が開発されつつあります。RNAは遺伝子発現の過程で情報を蛋白質に伝達するために機能します。最終的な働きは蛋白質に代表され、現在まで診断・治療マーカーで応用されているものは大部分蛋白質です。逆にRNAの臨床検査応用は未だ少ない状況です。近年の急速なゲノム解析、遺伝子発現解析や生命現象の研究により、マイクロアレイや定量的PCRなど分子生物学的技術も成熟し、血中に存在するRNA成分は蛋白質成分と同様に疾病や病期特異的な分布を示すことが期待されています。本研究は冠動脈関連疾患で増加するRNAの検出を試み、疾患の予測や重症度との関係を検索することです。具体的には、血液・切除された腫瘍組織から抽出したRNAを使用して21遺伝子の定量的PCRを行い、発現量を検討します。遺伝子の塩基配列の解析は行ないません。匿名化(対応表なし)して、解析を行います。研究期間は平成31年3月31日までです。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

採取された血液7mlから抽出したRNAの残検体(臨床検査医学講座で保存されている検体)を使用します。この研究のための追加検査や、患者さんから新たに検体を採取することはありません。下記の21遺伝子を定量的PCRで測定します。検索する遺伝子群は「冠動脈関連疾患の血液内遺伝子動態」の研究で申請したALOX5、ANXA3、HRH2、ICAM1、IL1R1、IL1R2、ITGAM、ITGB2、LTB4R、LTB4R2、MAPK14、PDE4B、PLCB2、PLCB3、PLCG2、PTAFR、PTGS2、TBXAS1、TNFSF1A、TNFSF1B、TNFSF13Bの21種の遺伝子と内在性コントロール遺伝子3種です。臨床情報は病歴、治療歴等です。

### 4. 研究組織

	講座等	官職	氏名	役割
主任研究者	臨床検査医学	教授	中西 邦昭	総括
分担研究者	臨床検査医学	准教授	緒方 衝	分子生物学的評価

分担研究者	臨床検査医学	教務職員	富永 晋	RNA の抽出
分担研究者	病院集中治療部	臨床教授	高瀬凡平	検体収集
分担研究者	社会医療法人社団 新都市医療研究会 「関越」会 関越 病院	医師	米山 暁	検体収集
分担研究者	東京医科歯科大学	特任教授	竹内 勝 之	統計処理

#### 5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先：埼玉県所沢市並木 3-2

防衛医科大学校 臨床検査医学講座

TEL: 04-2995-1511 (内線 5143)

研究代表者 中西 邦昭